

同本月十四日... 沈... 數... 全... 半... 文... 歲... 日... 臨... 萬... 傳...

正...

伴執國欽麻山林蘇孝子万衣傳

平野國次郎月輪傳抄心伝

執判鈴麻山林麻孝子万長傳

倭執國鈴麻郡馬代官多羅尾四郎右馬支配判坂之下宿  
古町之中を宿を六七町西に鈴麻山に林麻性来り之街道に  
いふ一にせけ判之宿有しか廣安二年之秋供ありて家損  
之せし後、宿場移され、是とは古町といふにけ判之万長と  
いへり孝子有父を市を過ると云判柄山里にれり田畑を  
多く少く山を持たねるを以て移て家もけは、自ら之街道に  
出と旅客は荷を運び其賃を取て居せと云云之正  
直成生質しと云け家の入聲成か、事ハ業と云、是れ  
同多正、然る者、と云、年頃、は、け、旅り、家、か、男、子、也、と、云

多量に成万石と云才を去取而を云惣は如承人己亥年  
二月十日市を過りつものしと人乃荷を持と以り多か取廉  
乃許は高少と俄に病付打倒惣同く仲々間乃有米店の  
人振らちあつて極く収抱はるにうひなりく終り死せる事歎  
いふも又二万石もす時人歳をれとすれも歎さ思かく有極  
なり極く貧乏の中は包斗乃葬礼といふもみ聊か進取を  
なしり極かしく仲法もさ思れと近里乃人々余の  
二十に満つれと寡婦乃力とと少人乃幼兒とをさしたる  
事完束あり候人乃人有候夫と入あ世と送り人  
進むもも賈と是とつ多すい候と始乃此少と  
貞節乃探と之守りと譬ひほるに及とも後夫も  
まみ尹と乃公森福もつむいふと云ひ切あ其後、幼兒を  
力とと近里に居とこれ麦つと編あは法業がとと  
かの質後を傳と森の令成送りぬると一官を以而生と  
弱く出ふあやと許は多窮とと向あひを法候あは天相  
元年七年七月十日ニヤとと死に余は史と先立悲傷の  
に二男におく是思事はいはるか積の病出米と方よたを  
かちなれんか乃わと中持つる山林といつつか人々僕を  
一近里に在りち業も叶と終く煙と云ん夜すかもか  
肌とくは法を使もはる思方台僕に六事なれは法候  
歎と母乃芳芸と想其うへ病發はる時、近隣は行業を  
乞と是とつらと或はと中にと極つる事とと病を助け母

又日毎小街道より出づ旅人の少く荷担を持て其貨を賣  
しとも所推考れん言ふ物もくべし事なり許し柳の道  
具洗羅刀柄持け於麻山と云ふ所より得た別二文文に  
るは物を朝な夕なりと云ふ事と日毎に怠らばく得る同し  
穀多し少しを尋うと申す機を以て夕共かの得る別  
後と集と申すはつとふ物に同二矣年天下大に饑饉  
しと米麦はいふも文之雜穀述も價半生に十倍と尋常  
に極世は穀農高直も同しと申すは餓死及んんとす世  
乃申成ると万石小見所財持と申すはけしと申す  
と文の米穀と得と申すは申すは申すは申すは申すは  
粒も食らば申すは申すは申すは申すは申すは申すは  
と乃から事其功勞筆減みそしつと申すは申すは申すは  
知りて力をそし憐と加且其至孝と稱しとも又少か  
其奉秋右川忠房大坂を南に歸る所を以てかたき家にか  
万石にり合里民に其孝公乃饒を以て感するも申すは  
尋糸りんと申すは其孝公と尋らば申すは申すは申すは  
およびかたき忠房同しと申すは申すは申すは申すは  
す二橋右邊依懸も羽之居く秋大坂は登屋が下事と  
尋らばかたき申すは申すは申すは申すは申すは申すは  
孝公いとうか意事事かし忠房様も申すは申すは申すは  
弘くかまが孝徳と申すは申すは申すは申すは申すは  
は色せまるりて申すは申すは申すは申すは申すは申すは

乃見其心忠致孝子なれを是下其筆をふるなり  
といふじしか一人より其人身をたたるか金もれんと志い  
く進んで進いぬむとせられは身なりうらま事とせむ  
記しゆる忠房は乃公を其外乃台母子か篤  
實乃忠安為附録しと世に義法とせむものなり

天明六丁丑年十月

三橋藤右衛門藤原

成烈記

後京都町奉行苑澤寺

### 万石傳附録

天明三癸卯年之秋難波乃在勤ももて東海道小序旅を  
急ぎしりし時しと八月十八日清事成るに水口の驛を出  
て山乃馬屋を過り於麻山某城を名訓し此所京なり見んと  
駕より出歩けり旅をりしに同じと乃久くお連てかた  
世方と秋色に公を執りてりしに何か坂道より向ふ小  
八重斗乃小坊主乃後も日経と判らるる小島月岡後後小  
佐馬持多色色は古き水滸の草衣を着て草鞋をきき  
来るも我れを見え道乃かゝるにあり會款しとけりしを  
加治守と命忠勝見替て小僧ハ地井や依とて賞出せと  
裁く申事ハ莞尔とていふるるは板とては女見へし  
忠房等南と依を賞やいふると尋事ハたよりありと云  
拘ふハ何ぞ致せやと言れしかる板に足敷しと云ふ

言系流端、面白く、又、約里、一、後、何、事、一、り、や、と、最、事、を、私  
を、曾、小、揚、と、取、り、り、ゆ、と、さ、ふ、ふ、い、に、た、り、し、と、事、と、さ、ふ  
小、揚、の、汝、等、何、と、持、り、欲、と、さ、ふ、を、出、風、長、友、包、持、り、と、さ、ふ、  
其、後、何、と、持、り、と、さ、ふ、し、や、坂、の、巾、連、也、能、と、持、系、の、以、り、流、り、と、  
さ、ふ、母、等、の、成、成、知、り、者、乃、か、の、教、業、も、さ、ふ、と、不、使、の、事、に  
あ、り、ゆ、り、あ、り、和、あ、り、と、我、に、は、幾、と、さ、ふ、る、一、貨、を、さ、  
一、魚、し、と、と、川、邊、連、以、道、也、か、ら、と、色、く、最、約、り、に、不、久、に  
記、あ、り、ま、し、行、言、な、か、ら、と、其、り、の、言、さ、ふ、ぬ、い、ど、く、か、ら、流、  
信、物、依、汝、女、衣、と、我、信、一、事、里、担、猪、の、鼻、乃、連、揚、り  
半、額、と、系、衣、女、休、り、れ、を、被、第、衣、の、書、万、衣、に、第、扱、あ、り、  
と、流、り、ま、し、と、梁、が、春、行、乃、極、子、志、の、志、成、り、事、と、流、り、と、  
恵、あ、ま、し、と、顔、の、る、程、か、く、お、ら、れ、た、る、駕、具、之、箱、持、等、  
力、又、と、も、半、り、と、被、お、も、そ、り、に、顔、り、る、も、お、持、に、之、是、約  
款、更、の、友、と、さ、ふ、毎、彼、孝、子、か、家、の、道、の、遠、り、と、力、又、と、も  
流、り、あ、ま、の、勢、と、孝、子、よ、句、ひ、ゆ、り、流、り、市、一、り、た、ら、  
と、教、り、と、さ、ふ、り、し、と、流、席、の、作、と、さ、ふ、と、程、現、と、禮、  
流、り、と、小、雲、小、坂、と、り、り、り、り、り、後、の、家、衣、六、七、利、之、垂、ひ、た、ら、  
的、高、小、高、の、女、の、声、と、小、僧、の、何、の、殿、極、方、乃、出、先、よ、之、  
半、額、也、也、流、り、出、流、せ、よ、と、比、里、た、る、半、額、と、是、ハ、汝、の、家、  
め、て、ハ、か、ら、さ、う、と、同、く、さ、ら、何、里、と、さ、ふ、り、た、ら、と、さ、ふ、  
せ、と、と、言、一、と、の、と、と、さ、つ、流、り、門、よ、と、さ、ふ、と、腰、扱、先、の、  
流、極、子、と、身、事、と、と、表、ハ、板、間、め、と、ハ、物、委、金、何、里、内、に、是、

に富む程乃古あるを友た教訓の里賜を去回して長く  
松を愛する有るは遊境より多かるを授け思ふに  
とも実より少く遠り来ると見えぬ道具衣類細く  
物を病種もかゝ唯表乃欄に葉もんと大六有旅人乃休  
たも葉あんとわたり旅を新へ押とらりし者の子  
と見えぬ色く葉衣は古きに練乃別と被事たる  
前あつと青かりの芋の茎とむしと飛たる近隣乃  
子依と見えぬ二人見え苦友かと思新る去回し此  
たろが秋と見えぬ出り思母を年頃二十五六と見え  
る母は病所と見えぬと云言く何れも務れと教  
訓有りける年を大殺僧と云とまると言ひしうへも  
及んと思ふ程はあつて人の心も母を苦境をさうへ  
向くとおもは休む事有らうとて葉なとら  
むと思ふ房中やうに母を此を果報の者之集今道す  
うへに安訓は小僧が孝行難か面と能くせんやか  
子と持事言ふ事一人の孝子天下乃此富むを成  
欲屋かびり未相無事と云れれと母と後と  
ちも難有とてお房を尋らに付て身の内人の出  
るに心しつと居候程別よ及くとて朝とても十二  
夜もと此母を近道乃子依言つても此の衣類を  
かゝと神清さうも此の万台も子か母と云見  
てともれたたくや思ふあつてとて今日を此

夜もふあらんゆへに休むも是れ申へ入事なりのおかし  
拙者少くも苦勞の心は得たゆへに敢てのうへに潤なると  
今日に於ては此れと申されし方衣は是れと申す後を信し  
拙者乃ち會事なりしゆを欲し見ゆ私に拙者事ハ悉く  
もなしくしとてしるらんぞと云ふ後かうかひは後見  
比拙ら之乃ち甲斐又おと親と持たて唯一日は拙者のこ  
によまかされしゆに成るゆへと存つて事少くおと親を  
汲せし事此れと申すゆへと存し是れ成事なりと成  
他と一人とて物乞ひする者もなうりまらざる者  
と心房より拙者親は子成思ふゆへにかくも有る  
己の末の子と持たしゆと申すゆへと存し是れ成事なり  
た多し事なりし神事神を思ふ後を信すかゆが  
貞節万長が寿を捨つてゆへに未乃ち親を成る後  
福を乗じしゆと力を附又まはしるの信よよかゆ思ふ  
と知る世乃ち人の習ふ小人窮すれば則ち道に失ふ  
乃ち之を教は是れと申すゆへと存し是れ成事なり  
や死して死を潔く成るゆへに今日かくも思ふ  
逢見の事則ち取多し幸しと悦ぶ之事毎乃ち成るゆへ  
病も癒し又同僚乃ちゆへと成るゆへに成るゆへに  
又汝方も有るゆへに公けし存るゆへに今日かくも思ふ  
同様に申すゆへに毎乃ち成るゆへに成るゆへに  
と申されしゆに依久間左京信近小幡平八郎信智青柳新次郎



忠貞加治任を命ふと思ひしは川中物いじく弟建仁万衣  
か悦ぶ方かく唯うちしは政少ゆへ蓋成持来れと中に分く  
持成し思皆是へ集てせしれを母子共原く礼と述  
孝里忠房中、是脚成と云とも棟か忠房と思ふ蓋うは  
偏天乃錫物と孝公乃徳と思ふ魚一杉いとふみま蓋  
かたは陰有くとも托事なかせ又昨日か小揚よ出候し  
是ゆりゆり万衣禮中終く蓋を持て彼と蓋乃列り相  
かといふうまに彼蓋と捧歩歩かまうか里平則くと居候  
彼は何をもちやと尋ね候も母子曰是ハ父の位牌を向  
て禮を彼に送りし云ふは威儀を信しゆりかくて時定  
後思建仁又十月ハ鳥魚しと物しと答へ駕後と急  
ゆり万衣ハ坂の下流宿へ川建運送里順乞しと仰思先乃力  
也夫も皆收と原く禮と申の事持成者有之

一 同年十月浪花母登とあ又と云うては身公掛志あ  
まらむ其れも同道人ともは事業と後御まらむ云うて  
あはれに物物何しれれを母子共原く禮謝しと且忠房か毎  
日を收あ母かゆも先頃乃出使もお由かく候も思は  
思有かうく小何年万衣事ハ連らまらぬも思ふ  
下されうしは政屋もあふ業と致さるゆへに使の母と  
まらにち申候は又協也といふもたぬ候しと相とまら  
然由は忠房中ハいやと云はれ我もては彼か云うしと云ひ  
まらぬ思ふといふも彼の妻しと申に母子はく孝有しと

天乃道也色付じりも賞就有ぞりし秋光を門之に連ゆ  
天乃道也遠ふと云川登し是乃正連かしくと云れは彼と理  
よゆく〜まると云出たるあ〜万石を色く教訓と別思  
万石も別思と云〜して所も付て牛馬思作乃正備して家  
士加着司其外皆之に休旅なり司兼向中旅たる事なれは  
万石と思く是也と同為何ぞや〜自由中暇〜と万石  
残旅〜思司是と付じ〜業旅も連行解と取〜何〜は  
も〜所とけ〜竹港か〜包付ら及何ゆ〜か〜守ら  
之〜無〜考〜と云ゆ之云産ハ別〜も〜産〜とて外  
に包〜と〜せ〜あ〜と〜是〜思〜島目杯〜由其夜  
司旅籠め〜物旅〜い〜思

一 同奉大坂五勅中聖教を受し杉浦千祐宗之にけるを後ゆれを  
保く威公〜と門守に色法重又備款乃席〜と必〜中登〜  
たゆ〜と高氏ハ保勢系之乃人多れを志有ハ尋登〜とて  
物旅致されれを明日去保勢系之乃人言〜と色〜川出  
物をら由其人〜同冬右房不敷交使系〜由禮中傳〜  
由中勢〜と波者仰〜杉浦氏〜と〜傳〜れ思其後  
難披乃人も抑〜ハ尋少〜と〜安〜

一 同辰年秋もかれを登主下境人〜多有之内ハ黒川共市  
盛匡三楊友を馬成烈敷入〜も先達者〜を重〜致〜尋られ  
はやう〜と尋ら〜ハ是〜重〜致〜尋られ  
若志れか〜有〜を事〜思〜貧旅尋志等

石川某記く孝子万右衛門と書く別々押之庵と云々也  
夫々為少人にてハ尋られぬ

一

交代師と師姑母向ふ今年ハ五勤申も入く歳は終り定し  
六志有入く尋られぬ一やがて有くぞ多事申乃助とも成  
就べし忠房又之志の傳れを万右衛門に出向じとありて  
扱と云ふ積る積りし中と條菓子らふとのありて申  
又万右衛門が少西は柳屋久平と云ふもの有り未仕年成ら  
志有万右衛門が少西と憐れ色く付寄る由之今日も  
忠房の通る事と少西は柳屋久平と云ふもの有り未仕年成ら  
達無彼の志と賞しと云ふ忠房の通る事と少西は柳屋久平と云ふもの有り未仕年成ら  
かと違はれし旨意と絶く忠房も其意せし積の業抄抄はらへて思  
一 同奉秋三橋成烈大坂の登屋を前忠房の万右衛門事具に少西と  
八月四日勢別通行時足と尋るに近里皆能知多其至孝と  
賞せり云々と抄子に對面し

尋るに云はけしも云ふ

本儀乃新し

詠せし歌記りもあらずして冷泉氏初公殿に由せしと云  
事里らる成由後んちと其かいつに由書原終る

一 後しとたのむつと書家 為恭御

なまの子乃是其諱乃玉成 新

かゝ家と有とありしれよぞ

成烈人母歎絶しと對之己年け由歎を額もあらずして家母

其荒埔を記して方衣が敷にをらり置てた里心房(七)彼  
由書派乃由派乃事とく若(五)思れどもに詔(甚)步  
冷泉殿(其)か(六)も(中)一(五)とて(去)年(初)方衣(敷)と(為)り(付)  
神乃(ま)に(國)乃(包)う(里)を(何)ら(り)一(事)

ま(よ)う(に)ま(した)家(由)を(し)た(何)事

成(烈)う(詠)州(由)派(由)書(派)と(建)一(事)流(辱)と(後)の(包)を(し)と  
思(ひ)何(り)一(事)

六乃(秋)の(惠)乃(流)を(か)事(そ)く(と)

一(つ)一(ま)を(か)う(と)袖(由)の(よ)れ(家)

と(流)と(ま)里(れ)を(二)首(流)派(流)と(書)派(の)い(家)

初(の)歌(乃)く(り)ら(に)

高(恭)御

見(を)免(は)く(人)母(か)た(り)し(云)流(美)も(也)

美(砂)乃(玉)乃(包)の(里)と(と)一(家)

後(乃)歌(流)か(り)ら(に)

あ(ま)家(と)の(袖)よ(う)く(人)を(氣)一(家)

あ(の)派(よ)り(ら)と(西)路(流)云(流)美(家)

一 同(五)己(年)の(秋)大(坂)乃(流)入(成)烈(流)詔(書)一(冷)泉(殿)の(流)派  
を(洋)見(し)一(事)

石(野)孫(之)流(廣)侍

氣(と)と(大)人(母)志(を)詔(書)一(事)

六(れ)を(惠)乃(流)流(乃)為(り)一(事)

羽(々)主(服)正(服)

陰しつゝいしと美乃玉と人の子流

らち乃枝折りころもかきさ

- 一 同年流夏二條五番に登里ゆら中島宮右馬高叙ふり中  
以下多智れ具取掃と稼のいしま有付男へしとく方衣たび  
ゆらよし是と飲と右房が汗へし禮とや誠しゆら同秋三上  
一 居る遊幸逢う通好の付為しに夜毎より男意り少志ゆらと幸  
一 同年夏の隅大坂左番流男神長侍誠正好村を王孫正親の友人  
都も里住勢系の人女使を侍多め方衣母子と為らに都人帰り  
方衣か母侍を頼び大女侍と流りとはは都めさう  
茶有とや付女入へし茶を来てしし教良茶乃流  
しか歩流かく全夜しゆら其後ハ持病流積氣も使方あるし中誠男

- 一 同年流初ハ右房の妻あるもの病出と療治を加ふといふ  
とも危病をかししから大坂ある同僚の人こと使し高  
尋問有するが毎月乃津自先達しり人々の物語し多叙  
か方衣の母をさす保くをいひたり月しり人こよ  
か何枝よりゆらゆらと尋し流しにとめく流れゆら使せし由  
若者れん方衣のゆら方衣くや思ひりん流康格現(目系  
と企と百夜系り杯しと全夜を祈りまきり多叙しと右野  
廣侍と下着の後物語り有しかハ妻ありしとハ初穂の  
卯と方衣が汗へし浪子杯きし病流客祈りまきしとやを  
しれを因く神亦少と祈禱いうら若る由にとくみくを麻  
に仕供ふと取掃と誠男其流しや目を追と妻の病氣も

全孝子飯りも誠よお房の脚乃恩徳と云れ考かゝる怪切是  
實子孝之百行の元之親も孝有との程程無し事ハ有る  
ぞうし彼がてしよとや訓渭生缺者とせんう

一孝乃傳を身ゆり高

人流子成たりの親乃習ひし高

親を思ふ子と云そかゝし高

一孝子流傳と身ゆりに冷泉殿乃湯飲を額にしとらん  
りもゆれと有りれん

冷泉二帝乃島重通

後乃歌に人云人流云流系も

かゝる家息の流流なりし高

右之儀とも江戸表へ進く相部事作判有之り及

天明七未乃光し二月四日

將軍家へ入る母作有りと由慶災流りし難有次第之

由書付と云作波比字乃之通

多羅尾四帝乃島代官判

東海道坂之下篇

万吉

其方儀切年々所々母と母兼に孝公之致方別と考持  
成儀之付為由慶災浪武松牧等々之兼に也為也表  
由扶持方一日之兼公之考り

久平

傳石場

別帳中渡万右儀初年く後如色病所く後付山宿没入  
後全附を洋領限と田代水く水強山根世法いつ可  
を辰田没く為中後比

差一中一札之事

万右儀初年く別とる如余は孝公く致方別と考持後付  
高比廣災限と根收とりく如余は考高志表比扶持方日  
米之公く下山版文作後私一回難有身存小勿論万右  
初年余は多病く看と付諸事包附取斗と旨首文作後  
一同水秋年最れ仍与證文差一中訓如件

多羅尾四帝在場湯代官訓  
勢別治麻郡坊之下篇

万右

各本類と付代系

久平

同庄年号

傳在場

道中

御奉行所

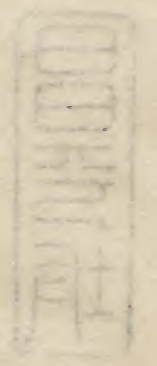
上云りる通ひ度

將軍家と由鷹家と

万右旅宿に旅者月平聲不奴貞渡方と云ひ比る  
違ひ万右に硯筆とての之の勢杯とて帰らる  
物語を少く我方は常く源氏物語とての講釈にも縁  
ある菅根と云る和方に志保の婦人乃

神田乃係勢流玉が段坂の下に可合とかんをふか  
いとも川一とて入母を留まうとてつへ有れんなるは  
いと博かちと息と唯望と皇子乃六の事と事道  
母之りとおりとりたふ人乃物博あま成せと  
母ぢんをふらとつ有る成あふはけにあま  
免しとを争あ先何とてせつのと一洋生流  
四目よ吾事な較定乃河庭にたてと白根或指投を  
流る母らとまは成れぬむ多孫んあうようし  
見よと村長に作とむむしとをむに作付ら  
世よ活かゆ急あふとてまふうかみあをし  
と流るくむ名あむる人もりて事

おまあきいほよめた免しやハの段



天明七<sub>丁</sub>未奉四月写之  
享和元<sub>辛</sub>酉奉八月写之  
文化二<sub>乙</sub>亥奉九月写之

右河勝任

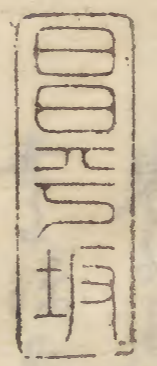


神代卷之五 卷之五 卷之五

天保二十一年

天保二十一年

天保二十一年



天保二十一年

